先生は生来の植物愛好者で，日本における蘚苔類研究の開拓者であると同時に，日本の植生研究の指導者でもあった。東亜の各地を実地踏査して資料を収集し，野外観察による実体の把握を理想とされた。東奔西走による当初の成果は，本誌上にも「東亜産蘚苔植物報告 1〜7」として発表されている。

南洋産未発表資料を初めとして，当時蘚苔類においては東洋一と称された標本庫が戦災にあったことは，先生にとっては言語に絶する痛手だったに違いない。しかし先生は「ヒコバエ」の繁茂を深く念じて，狭められた日本領土の再踏査を計画され，10 年目には「蘚苔植物の分布」に関する書物を出版された。寸暇を惜しんでの調査行と三面法による植物分布図の創案とによって「日本植物分布図譜」の大著が誕生した。間近かな第 2 巻の出版もようやく続刊の運びになった。先生の生前のご功績に対しては，従三位勲二等瑞宝章が追贈された。　(鈴木兵二)

故堀川芳雄教授の印象　故人は豪放磊落，生来頑健であり，精力的な指導者として多くの子弟を研究活動に組織した。その風貌と行動力は一見強引とも見える印象を与えるかと思われるが，独特のユーモア感覚とその底に潜む細やかな人間への愛情によって多くの人々を引きつけた。東北大学の Science Report にあらわれた初期の作品，Studies on the Hepaticae of Japan を見ると周到さと神経質なまでの繊細さが作図のはしにまで表われているのが分る。『本邦ノ苔類「フロラ」ニ二三属ヲ加ウ』(本誌 7: (20)-(25), 1930) は広島時代の研究の胎動を垣間見せる。挿入された気鋭の肖像写真は本格的な陰花植物の研究者の出現を待望していた牧野富太郎博士の教授への共感と配慮によるものであったろう。教授は後年蘚苔の分類学的研究は後進に譲り，蘚苔の分布論，植物調査，全国的な植物分布図の研究に没頭し，その間広く藻・菌・地衣の分類学および植生生態学の若い研究者を大量に養成した。しかし教授も病魔には勝てなかった。特異な学者を失ったことを惜しむ。　(津山　尚)

Yoshiwo Horikawa (1902-1976)

Dr. Yoshiwo Horikawa, Professor Emeritus of Hiroshima University and the editor of Hikobia, chiefly devoted in the cryptogamic botany, has passed away on March 18, 1976. He was actually a pioneer in the systematic bryology in Japan, especially in Hepaticae. After the destruction of his vast number of bryological collections at his University by the atomic bomb, his main interest was directed to the vegetation geography and the mapping of plant species in Japan. He was indeed an energetic and productive researcher enriched with the good sense of humour.